

# 私たちは本当に安全か？ 第2回防災・減災講演会

緑区の地域で防災・減災に取り組んでおられる方々が集い、話し合いをいたしました。(32名参加)  
平成24年11月11日 主催 緑区市民活動支援センター(みどりーむ) 防災・減災実行委員会  
協力 まちづくりネットワーク緑 緑区役所

## みどりーむ運営委員会の 岡部委員長から冒頭挨拶 がありました

(司会 中島光明)



## 第一部 パネルトーク 要旨

### ◆東日本大震災からの メッセージ

#### コメンテータ池田邦昭さん

(防災塾・だるま 副代表)のオープニング発言

「釜石の奇跡」：中学校の防災教育が実践され、多くの命が救われた。中学生が小学生の手を引いて長い道のりを山に逃れた、この臨機応変な判断で生徒たちが助かった話。また石巻では、生徒と教師が悲劇にあった。一瞬の判断が生命を救う、備えを怠らない。



### ■単位自治会の効率的防災 遠藤陽義さん

(東本郷ぼらの会自治会 顧問)

地域住民の交流は、お互いの助け合いになる。平成19年、自主防災組織を作り、各班の編成を顔の見える関係に再構築した(ブロック単位→道路を挟んだ向い側単位)。安否確認用に黄色い旗の掲示訓練も行った。最近では防災ツールやトランシーバーを配置、さらに各班別訓練を行っている。



### ■横浜市緑消防団

和內健一さん(緑区消防団 本部部長)

消防団は江戸時代からあり、緑区では男性307名、女性30名で構成している。



災害時は消防署の指揮下に入り、無線機40数台、8台のポンプ車を有し、ホースをつないで数百m先まで放水ができる。自分自身は自分で守る冷静さが必要だ。

### ■マンション管理組合の防災への取り組み

大庭雅敦さん(サンヴェール長津田 管理組合理事長)



110戸のマンションでアンケートを取った処、防災委員への参加希望は7名、アマチュア無線や防火管理者の資格を持っている人がおり、心強かった。

さらに自治会との分担明確化、共通備蓄品の準備、防災マニュアルを整備する予定です。

### ■地域組織力を生かした災害援護者の安否確認

古田充子さん(参加型福祉ユニット緑 運営委員)

介護保険制度によるヘルパー介護が始まったが、法的介護以外で、地域の助けあい事業



「参加型福祉ユニット緑」を結成した。家事介護サービス、食事サービス、移動サービスなど10団体が所属し、緑区福祉マップを作った。昨年の大震災時にもサービス活動を継続し、利用者の安否確認を行った。

### ■自分と家族を守るための「必需品」

内田稔さん(新治中部連合 地区家庭防災員連絡員)



防災は自助が基本で、家族の安否確認後72時間は自分で生活する覚悟が必要です。

地震で電気のブレーカーが落ちる装置を取り付ける工夫をした。

自分と家族を守るための「必需品」を、1つずつポーチから取り出し説明された。



### ■まとめ(池田さん)

この10年の間に、世界で多数の死者がでた大地震が3件発生した。地震は、いつでもどこでも起こりうるので、イメージして備える事です。

## 第二部 防災についてのフリートーク

5グループで防災への思いを語り合いました。

### 1. 地域を知ろう

- ・家庭防災員  
や自治会の役割が理解できた
- ・近くの若い人は、防災への関心が高い
- ・色々な情報で、何(誰)を信じたらいいのか?
- ・防災に関心がない人が多い
- ・要介護者の把握、車椅子の人への対応



### 2. まず自助だ

- ・自宅で生活する自助努力を
- ・出来るだけ防災拠点には行かない方がよい
- ・災害に備えて1週間分の備え(食料・水)を
- ・災害時情報をどう集めていかに伝達するか
- ・病名や処方箋を書いたものを身に着ける
- ・自分(の家)が火元にならないように



### 3. ノーハウの情報交換

- ・避難所や防災拠点を過信するな(水・食料・トイレは不十分)
- ・黄色い旗(安否確認)は良い方法だ
- ・突っ張り棒で家具を固定しているが安全か
- ・携帯がダメな時はトランシーバーが役に立つ

### 4. 色々な不安が語られました

- ・震度7の地震はどんな災害が発生するか?
- ・停電のときはエレベーターが止まり大変だ
- ・鶴見川の近くだから洪水が心配
- ・地割れ・山崩れなどの場合はどうする?
- ・災害が起きると、自治会未加入者が危ない

### 5. こんな意見も出ました

- ・支えあいカードをもっと利用できるように
- ・近所のスーパーや大規模商店・宗教施設などとの協定を



まとめの発表

## アンケート結果

### ● 講座の概要

- ・参加者総数: 43名(一般参加32名、パネリストなど6名、実行委員4名、スタッフ1名)
- ・アンケート数: 28名

### 1. 今日の講座は参考になりましたか?

- <第1部 パネルトーク>  
とても参考になった=21件 ふつう=4件 わからない=0件 無回答=3件
- <第2部 フリートーク>  
とても参考になった=11件 ふつう=5件 わからない=0件 無回答=12件 \*時間不足

### 2. 講座で印象に残ったことがありましたか?

- ・家族で自助を自覚することの重要性(2件)
- ・防災をイメージして自発的に行動する(3件)
- ・防災への関心が強くなった(2件)
- ・防災取組みは地域により格差がある(2件)
- ・「ばらの会自治会」活動は素晴らしい(4件)
- ・マンションの防災組織取組み・難しさ(3件)

### 3. 印象に残ったこと? (複数回答可)

- 地震について(首都圏直下地震=7件 南海トラフ3連動地震=4件 地震全般=4件)
- 火災について=9件 津波について=0件
- 液状化現象について=3件
- 災害避難所について=12件、帰宅困難者対策について=7件、災害要援護者対策について=11件
- 耐震化について=10件 家具転倒防止について=3件、防災訓練について=8件
- その他(古いマンション)

### 4. 防災・減災について、あなたのご意見

- ・家族の必需品備蓄
- ・防災について家族・近隣と話し合う(4件)
- ・共助に関する講座の実施を希望
- ・行政は自治会に対し「自助努力」を積極的に啓蒙すべき

## まとめ

1. パネルトークもフリートークも率直な意見や提案がありました。
2. 避難所であり、情報・物流の拠点となる地域防災拠点運営までは話が発展しなかった。
3. 大地震で被害を受けた時、地域の状況を予測し、生き延びる新たな準備は何か・・・。